Topic 5

令和7年度卒業生　卒業時アンケートの結果

本学では卒業時における学生の学びの満足度を調査しています。
各項目においておおむね80%を超える卒業生が「大変満足している」または「満足している」と回答いただきました。
その中でも特に満足度が高かった項目について紹介します。

卒業時までに身につけた力で満足度が高かったものは…？

専門的な知識・教養
95.7%





指導者基礎力 **95.6%**

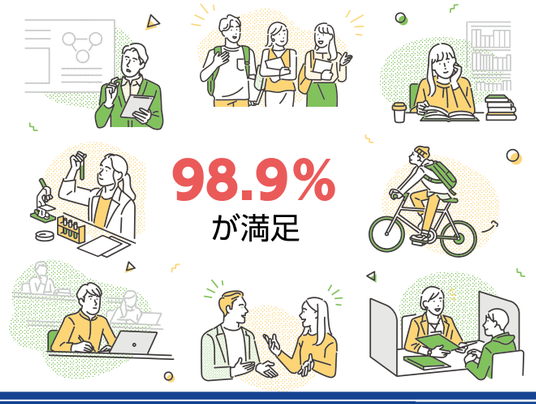


課題解決力 **95.6%**

コミュニケーション力
95%



鹿屋体育大学への入学満足度は…



98.9%
が満足

自身の成長への満足度は…

98.9% が自身の成長に満足



〈 発行 〉
鹿屋体育大学　教育企画・評価室
〒891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町1番地
管理棟1階　教務課内

・TEL&FAX：0994-46-5082
・E-MAIL　：kyoumu-ap@nifs-k.ac.jp

〈 企画・編集 〉
北村尚浩・淵田留美

『鹿屋体育大学での4年間が充実する秘密の書』が4.1にVersion up!!

本学での学びや大学生活に関する情報がギュッと詰まった1冊です。
大学HPでも公開していますので、是非ご覧ください。



2026.10　Vol.19

NIFS-AP News

◆ 教員から体育大生へのメッセージ
◆ 令和8年度入学生のPROG結果
◆ 卒業生就職先アンケート
◆ NIFSpassを入力しよう！
◆ 卒業時アンケート結果



Topic 1

教員から体育大生へのメッセージ



スポーツ・武道実践科学系

よしづか　かずのり
准教授 **吉塚　一典** 先生

研究キーワード
・長距離走
・暑熱下運動
・体温

「失敗を恐れず、実践から学べ」

陸上競技、ジョギング＆ウォーキングなどの授業を担当している吉塚一典です。

私は本学の一期生であり、全日本大学駅伝への出場を夢見て入学しました。しかし、当時長距離の部員は3名で九州地区予選にも出場できませんでした。長距離のコーチも先輩もおらず、何もかも自分達で考えて作り上げていくしかなく、やってみては失敗し、また考えてやってみる、そんな泥臭い試行錯誤(実践)の繰り返しでした。結局全日本大学駅伝への出場は叶いませんでしたが、4年間全力で挑戦し続けた日々、そして数々の実践こそが、失敗を恐れずに挑戦する姿勢を育んでくれたと、今では感謝しています。

スポーツで競技を続けていく過程は、失敗と成功の繰り返しですが、勉学でも、人生でも同じです。現代では様々な情報が簡単に手に入り、AIを使えばより効率的に物事を進められる時代になりました。しかし、人間の身体や心はどこまでいってもアナログです。競技スポーツにおいて「科学的」ということを「楽にやる」ということと勘違いしてはなりません。私の恩師である平田文夫先生(本学名誉教授)は「非科学の科学が大事だ」と度々我々に話されました。これは、「理論」にとらわれ「頭でっかち」になるより、失敗しても良いから体育人らしく愚直にやってみること、すなわち「実践」が何よりも大事だという教えであったと理解しています。

2年前、私は59歳の時に本学に転職しました。そして、学生時代に果たせなかった全日本大学駅伝出場という夢に、指導者として学生とともに再挑戦しています。

若い時の失敗は、すべて人生の糧になります。学生の皆さんは、効率や正解ばかりを求めず、失敗を恐れずに全力で挑戦して欲しいと願います。

「勇気の供給源」

保健体育科教育学を専門としており、保健体育教師を目指す学生に向けた教員養成課程の授業を主に担当しています。授業では、単なるスキルや知識の獲得にとどまらず、学習や経験を通して自分の教育観や指導観、そして在り方を問い続けることを大切にしています。自身を内省していくまなざしこそが、学び続ける力の礎になると考えています。

私自身本学の卒業生であり、中学校の保健体育教員として6年間勤務しました。日々の授業、生徒の悩みや挑戦に寄り添う時間、そしてふとした瞬間に見える成長のきらめき。そうした経験は、教育の難しさと面白さを同時に教えてくれました。どんな眼鏡で世界を見るのか、自分自身が問われたような気がします。

江國さんの著書のなかに、「勇気は消耗品である」という言葉があります。そして、勇気が消耗品なら、どこかに必ず供給源があるはずだと。読書をしたり、友達と語り合ったり、おいしいものを食べたり。そんな小さな瞬間が、人を勇敢にし、「自分の人生への信頼」を育てていくのだと語られています。私の大好きな言葉です。

振り返れば、私自身もこの鹿屋の地で、多くの仲間や先生方と出会い、たくさん挑戦し、死ぬほど笑い、くだらないことにも本気で向き合いながら、数えきれないほどの“勇気の供給源”を得てきました。そうした瞬間の積み重ねが、自分の人生への信頼へとつながっていったのだと思います。大学での4年間で、皆さんがたくさんの「勇気の供給源」を得てくれることを願います。もし、私との関わりがそのひとかけらとして役立つのであれば、これほど嬉しいことはありません。そして何より、この鹿屋の地で皆さんと向き合う時間そのものが、私自身の勇気の供給源になっていることは間違いありません。これからもどうぞよろしくお願いします。



スポーツ人文・応用社会科学系

まつなが　たけと
講師 **松永　武人** 先生

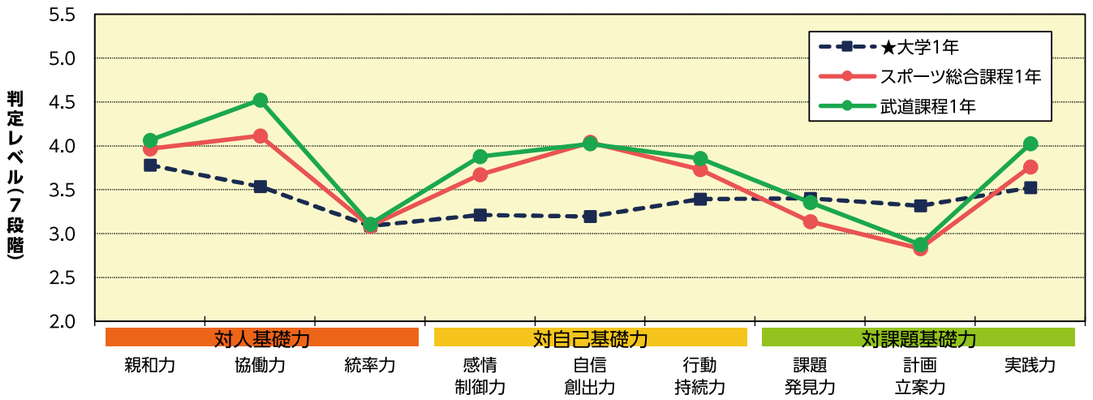
研究キーワード
・保健体育科教育
・教員養成課程

Topic 2

令和8年度入学生（1年生・3年次編入生）の社会人基礎力（PROGテスト）

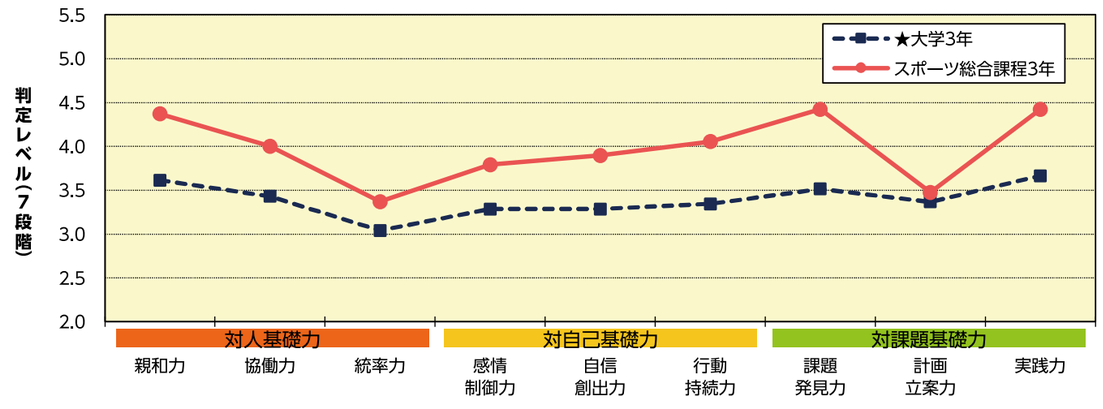
下の図は、4月から5月にかけて実施したPROGテストにおける、1年生および3年次編入生のコンピテンシー中分類要素の結果を示したものです。結果はおおむね基準集団を上回る結果となっています。

【1年生】コンピテンシー　中分類要素



スポーツ総合課程・武道課程ともに「**親和力**」、「**協働力**」、「**感情制御力**」、「**自信創出力**」、「**実践力**」において平均値が高い結果となっています。一方で、「対課題基礎力」は全国平均を下回る傾向がみられました。なかでも「**計画立案力**」は、全国平均よりも低い結果となっています。

【3年次編入生】コンピテンシー　中分類要素



3年次編入生においては「**親和力**」、「**協働力**」、「**感情制御力**」、「**自信創出力**」、「**行動持続力**」、「**課題発見力**」、「**実践力**」の平均値が高い結果となっています。全国平均を上回っていますが「**計画立案力**」が低い傾向にあります。

「**計画立案力**」を高めるためには、日頃からゴールを明確にイメージしながら課題に取り組むこと、また、想定される障害をあらかじめ考慮し、代替案を用意することが大切です。テスト結果は、個々の強みや弱みを視覚的に理解できるようにフィードバックされています。結果を振り返って自己理解を深め、本学での学修に活かしてください。

計画立案力UPのための方法

出典：(株)リアセック『PROGの教科書 ver.14』

- ☐目標を立てる時は、理想を描くことから始める
- ☐やることを書き出して優先順位に並び替える
- ☐課題提出日から逆算してスケジュールを立てる
- ☐みんなとできるだけ情報を共有して助けてもらう
- ☐目標の実現に向けたシナリオを考えておく
- ☐限界を設けず、まずは大きな目標を立ててみる
- ☐「誰が、いつまでに、何をするか」、計画してから取り組む
- ☐グループで作業する際、メンバーの状況を考慮し作業を割り振る
- ☐何が起きるか、事前にできる限り予測しておく
- ☐グループで課題に取り組むときは、メンバーの状況を共有しておく

Topic 3

令和6年度卒業生の就職先アンケート集計結果

学生が身につけた資質・能力に対する就職先企業の満足度を把握するため、令和6年度卒業生の就職先140団体に対してアンケート調査を実施し、64団体よりご回答をいただきました。以下の図は、企業が採用時に重視する資質・能力と、実際に勤務を開始した鹿屋体育大学卒業生の資質・能力に対する評価を比較しています。　※調査期間　令和7年7月17日～令和7年9月30日

企業が採用時に求める資質・能力

全20項目のうち、該当する項目に複数回答

1位	主体性・積極性	52団体
2位	協働力	47団体
3位	実践・実行力	43団体
4位	高い倫理観・モラルの保持	36団体
5位	一般知識・幅広い教養	35団体

鹿屋体育大学卒業生の資質・能力に対する評価

全20項目のうち、該当する項目に複数回答

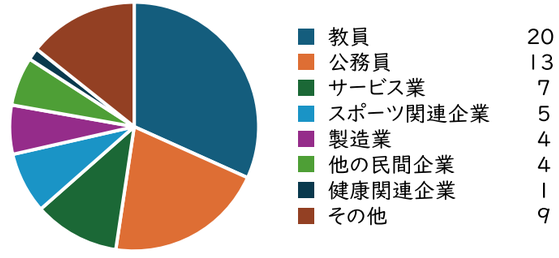
（5点満点）

1位	協働力	3.6点
	主体性・積極性	3.6点
2位	親和力	3.5点
	実践・実行力	3.5点
3位	感情抑制力	3.4点
	行動持続力	3.4点
	高い倫理観・モラルの保持	3.4点

卒業生に対する企業からの意見等

・非常に積極性があり、専門性が高い。
・コミュニケーション能力がとても高く、礼節もしっかりしている。
・組織への貢献意識や向上心が素晴らしく、社内へ良い影響をあたえてくれている。
・スポーツの第一線で活躍していたようだが温和で明るく生徒からも信頼がある。
・明るくはつらつと謙虚な姿勢で仕事をしており、大変好感が持てる。
・物事を俯瞰的に見れるところや、質問する積極的な姿勢など他大学の学生の方より高かったように感じる。

回答企業の主たる業種



Topic 4

振り返りが成長への第一歩！　NIFSpassを入力しよう！

NIFSpassは、GPA・PROG・SCCOTの結果を分析し、自身の学修を振り返ることでPDCAサイクル(Plan,Do,Check,Act)の定着を支援するツールです。Checkで強みや課題、改善点を明確にし、Actで具体的な改善行動につなげることで、学びと成長を促進します。前期の成績が公表されているので、NIFSpassの入力を必ず済ませるようにしましょう。

① 教育企画・評価室から入力の案内メールが届いたら…
Webclassにログイン



② 『学習と振り返りの記録』から入力するカルテを選択



③ 自身の成績分析を見ながらページ下部の3つの質問に対して回答
回答する際は　回答　をクリック

④ 振り返りの入力が終わったら忘れずに「提出」をクリック

